

「ヨコハマトリエンナーレ 2014」の開催結果について



1 開催概要

- (1) 会 期 平成 26 年 8 月 1 日(金)～11 月 3 日(月・祝)
開催日数：89 日間 ※休場日：第 1・3 木曜日(計 6 日間)
- (2) 参加作家 19 の国から 65 組 79 名、作品数 444 件 726 点
- (3) 来場者数 214,901 人
(内訳：横浜美術館132,908人 新港ピア76,105人 展覧会プログラム(※)5,888人)
※「展覧会プログラム」は、有料会場以外で実施した出品作家関連プログラムの来場者数
- (4) 入場券販売枚数 103,807 枚
(内訳：前売券 23,516 枚 当日券 80,291 枚)

展覧会名称	ヨコハマトリエンナーレ 2014 「華氏 451 の芸術：世界の中心には忘却の海がある」
会 場	横浜美術館、新港ピア(新港ふ頭展示施設)
主 催	横浜市、(公財)横浜市芸術文化振興財団、NHK、朝日新聞社 横浜トリエンナーレ組織委員会
支 援	文化庁(国際芸術フェスティバル支援事業)
特別協力	独立行政法人国際交流基金

2 事業収支見込み

- (1) 収支見込み額：約 1 億円の収支差益
(収入(協賛・助成金収入等)の増、及び支出削減の徹底による)
組織委員会に負担金を拠出している横浜市に対して、収支差益
1 億円を返戻の予定
- (2) 決算見込み額：約 9 億円(平成 24～26 年度の 3 か年度計)

3 経済波及効果・パブリシティ効果

	経済波及効果推計値	パブリシティ効果
2014 年展	23 億円	52 億円
2011 年展	32 億円	47 億円



演劇公演「日輪の翼」のための移動舞台車 2014
撮影：田中 雄一郎
写真提供：横浜トリエンナーレ組織委員会

【参考：メディア露出件数 ※平成 26 年 12 月末日現在】

総計	テレビ	CATV	ラジオ	新聞	雑誌	WEB	その他
3,899 (117)	53 (9)	1,019 (0)	38 (0)	875 (2)	381 (26)	1,484 (80)	49 (0)

※ () の数字は、海外の露出件数。内数。

4 市民協働事業

市民サポーターによる展示支援活動や作品解説などを行い、サポーターの登録者数も過去最高となり、より多くの市民が参加した。

【参考：サポーター登録者数と活動延べ人数】

	登録者数	会期中活動延べ人数
2014年展	1,631人	2,449人
2011年展	940人	1,930人

5 次世代育成

中学生、高校生による作品ツアーガイドの実施や、市内の小中学生に向けて専用のポケットガイドを配布したことにより、中学生以下の来場者数も2011年展より増加した。

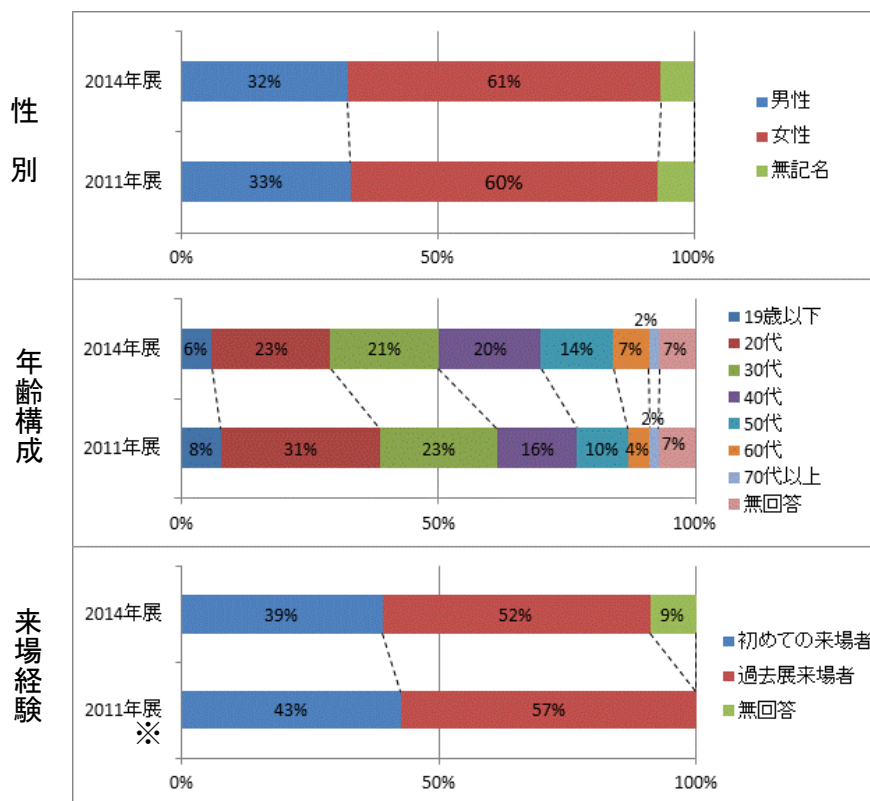
【参考：中学生以下来場者数】

	中学生以下来場者数
2014年展	26,381人
2011年展	24,205人

6 来場者アンケート結果

(1) 来場者の傾向

- ・男女比はほぼ1：2で、2011年展と同様の傾向であった。
- ・20、30、40代がそれぞれ約20%となり、偏りのない世代の方が御来場されている。
- ・ほぼ半数の方が過去に横浜トリエンナーレに御来場したことのある方だった。

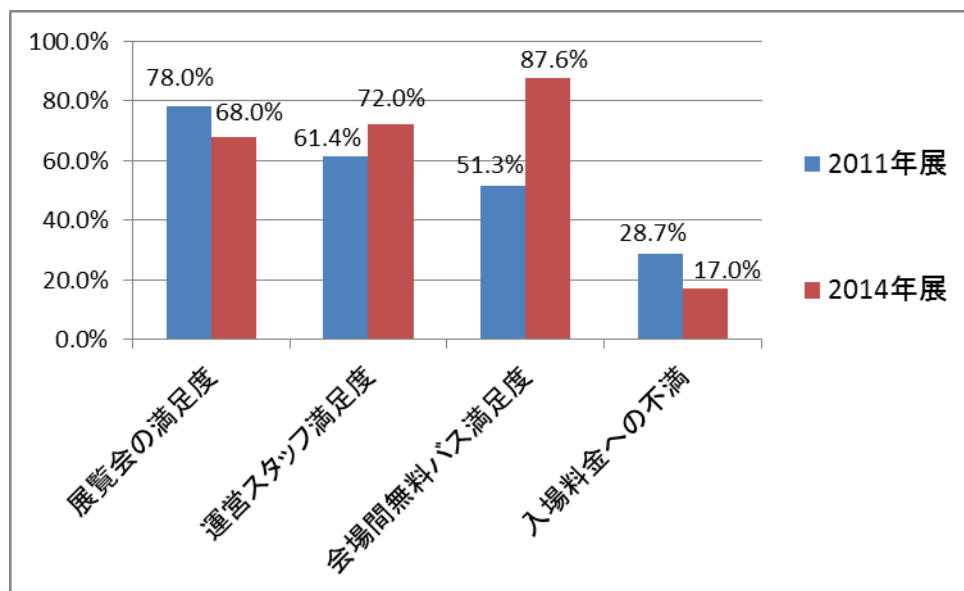


2011年展 n=1,870
2014年展 n=1,456

※2011年展は過去展来場経験のみを調査

(2) 2011年展からの変化

- ・ 展覧会の内容に対する満足度は、78.0%から68.0%に減少した。
- ・ 運営スタッフに対する満足度が61.4%から72.0%に、会場間無料バスに対する満足度が51.3%から87.6%に増加した。
- ・ 一般の当日券で200円の値上げをしたが、料金への不満は28.7%から17.0%に減少した。



2014年展と2011年展の比較表

7 総括

- ・ 30万人という目標には届かなかったものの、国内大型展覧会の来場者数が全体的に少ない中で、20万人を超える来場者を集め、国内外の専門家からも大変高い評価を得られた。
- ・ 各メディアでの報道は概ね好評だったが、一部難解にも感じられることを指摘された。
- ・ 質の高い展覧会として実施できた一方、音声ガイドなどの現代アートを分かりやすく伝えるツールとその活用が必要だった。
- ・ 5つ全ての創造界限拠点と初めて連携したことに加え、東アジア文化都市の特別事業として実施したことで、中国・韓国との交流も深まり、文化芸術創造都市横浜のリーディングプロジェクトとして、大きな存在感を示すことができた。
- ・ 課題であった、中学生以下の来場者数と外国人来場者数を増加することができた。

横浜トリエンナーレ開催実績

	開催年	会期 (開催日数)	主会場	テーマ	ディレクター	作家数	作品数	総事業費	総来場者数	外国人 来場者数	中学生以下 来場者数	有料会場 来場者数	チケット 販売枚数	メディア 露出件数	ボランティア 登録者数
第1回	2001	9月2日～ 11月11日 (67日)	[2会場] ●パシフィコ横浜 展示ホール ●横浜赤レンガ倉庫 1号館	メガ・ウェイブ 新たな総合に向けて	アーティストック・ ディレクター: 河本 信治 建畠 哲 中村 信夫 南條 史生	109作家	113件	約7億円	約35万人	—	—	約35万人 ※	約17万枚	—	719人
第2回	2005	9月28日～ 12月18日 (82日)	[1会場] ●山下ふ頭3号・4号 上屋	アートサーカス 日常からの跳躍	総合ディレクター: 川俣 正	86作家	84件	約9億円	約19万人	—	—	約16万人	約12万枚	1,089件	1,222人
第3回	2008	9月13日～ 11月30日 (79日)	[4会場] ●新港ピア ●日本郵船海岸通 倉庫(BankART Studio NYK) ●横浜赤レンガ倉庫 1号館 ●三溪園 ●他無料3会場	TIME CREVASSE タイムクレヴァス	総合ディレクター: 水沢 勉	72作家	66件	約9億円	約55万人	—	—	約30万人 ※	約9万枚	1,233件	1,510人
第4回	2011	8月6日～ 11月6日 (83日)	[2会場] ●横浜美術館 ●日本郵船海岸通 倉庫(BankART Studio NYK) ●他無料2会場	OUR MAGIC HOUR 世界はどこまで知るこ とができるか?	総合ディレクター: 逢坂 恵理子 アーティストック・ ディレクター: 三木 あき子	77組 79名	337件	約9億円	約33万人	約3,000人	24,205人	約30万人 ※	約17万枚	1,763件	940人
第5回	2014	8月1日～ 11月3日 (89日)	[2会場] ●横浜美術館 ●新港ピア	華氏451の芸術: 世界の中心には 忘却の海がある	アーティストック・ ディレクター: 森村 泰昌	65組 79名	444件	約9億円	約21万人	4,501人	26,381人	約21万人 ※	約10万枚	3,700件	1,631人

※ 第1回、第3回、第4回、第5回については、有料会場の延べ入場者数